

参考資料②：学校の適正規模について※宮城県仙台市ホームページ資料より抜粋

小規模校の「よさ」と「課題」



一般的に、小規模な学校では、児童生徒や教職員がお互いをよく知っており、アットホームな雰囲気の中で学校生活を送ることができたり、学校行事などでは学校全体が一体となって活動しやすかったりといったよさがあります。その一方で、大勢の児童生徒の迫力ある運動会や学習発表会を行うこと、学年単位での活動に制約があることなど、課題もあります。

現在、小規模校では、それぞれの学校が持つよさを活かしながら創意工夫し、課題となることを補う努力をしています。しかし、学校の努力だけでは解決することが難しい課題もあります。

規模に起因する課題

例えば、1学年に1学級しかなければクラス替えを行うことはできません。この場合、入学から卒業まで同じ人間関係が続くことになり、知らず知らずのうちに児童生徒の間で、互いの評価の固定化や、順番付けがされてしまうなどの可能性があります。

また、学校にはグループ別学習や部活動など、一定規模の集団があることにより大きな効果が得られる教育活動もたくさんあります。しかし、小規模校ではこれらについても、十分に行うことが難しくなります。

加えて、教員の数については、学級数により教員数の標準が法令で定められている関係から、小規模校では教員間での教科に関する研究などが十分に行えるような教員の配置ができないなど、学習指導面で充実を図ることが難しくなります。

これらは、学校の規模そのものが原因となって起きる課題であるため、小規模校のままで解決することは大変困難です。

